



生き生きとした明るい学校づくり  
～地域に根ざした創意ある教育活動を通して～

## 佐世保市立黒島中学校

住 所 佐世保市黒島町 2608-10



校長名 月川 英昭  
生徒数 8名  
学級数 2学級（1・2年生複式）

### 1 目 的

本校の学校教育目標である「豊かな心で主体的に学び、健康でたくましい生徒の育成」を具現化するため以下の項目を中心に、家庭・地域との密接な連携を図り、地域に根ざした創意ある活動を実践する。小中併設2年目となり「通いたい学校 通わせたい学校 働きたい学校」をスローガンとし、様々な活動の中で「表現力」「活用力」を高めながら成長していくことを目指す。

- (1) 地域に根ざし開かれた学校づくりを推進するための学校行事カレンダーの作成・配布
- (2) 地域の自然環境を生かした海洋スポーツ（シーカヤック）の推進
- (3) 英語力の向上とコミュニケーション能力の向上を目指した体験活動の実施
- (4) 職業に対する正しい理解と望ましい勤労観を育むための職場体験の実施
- (5) 基礎学力の向上と確かな学力の定着に向けた取組の実施
- (6) 環境教育と食育の推進
- (7) 地域とともに歩み、成長するための活動

### 2 実践内容

#### (1) 学校行事カレンダーの作成・配布

本年度も、小中併設2年目として小中学校の年間行事予定を組み込んだカレンダーを作成し、保護者をはじめとして町内全世帯に配布した。カレンダーには前年度に実施した児童・生徒の行事の写真も連載しており、保護者だけではなく、地域全体の学校教育に対する関心・理解が深まり、学校・保護者・地域の協力・連携を促進することができた。

#### (2) 地域の自然環境を生かした海洋スポーツ（シーカヤック）の推進



本年度で5年目のシーカヤック体験学習となり、昨年に引き続き佐世保カヌースクールの高倉様にご指導いただいた。まず、転覆したときのレスキュー法について実際に艇を転覆させて、2艇で救助し、水を抜いて艇にもどる学習を行った。転覆した生徒は苦戦しながらも友達の助けをかりて艇にもどることができ貴重な体験となった。次に、伊島までのツーリングの予定であったが波が高かったため、黒島周辺の養殖場までのツーリングを行った。郷土の恵まれた自然を愛する心と海洋スポーツに対する知識と技能を高めるとともに、困難に立ち向かう気力と体力を育てることができた。

### (3) 英語力の向上とコミュニケーション能力の向上を目指した体験活動の実施

#### ①英語体験プログラム



今年で3回目になる英語体験プログラムをハウステンボスイングリッシュスクウェアにおいて実施した。この取組は外国人とのコミュニケーションを通して英語や外国人に対する苦手意識を払拭し、英語でコミュニケーションを図ることの楽しさを体感させることを目的としたもので、外国人スタッフが帯同しながら施設内でのアトラクションや昼食

などの日常生活を英会話のみで体験した。当初、英語のみの会話に戸惑っていた生徒も次第に外国人スタッフとコミュニケーションがとれるようになり、楽しみながら活動することができた。3年生と1年生では英語力に差はあるものの、生徒一人一人が自分の英語力を積極的に活用していこうとする態度を育てることができ、英語学習に対する意欲の向上にもつながった。

#### ②大規模校における学校生活体験（他校訪問・今年より早岐中学校へ）

卒業後、高校進学のために島を離れる本校生徒にとって、高校入学後の集団生活への適応は大きな課題である。この課題に取り組むため、毎年生徒全員が大規模校を訪問し、朝の会から帰りの会まで、各学年・学級で学校生活を体験している。今年度より、早岐中学校にお世話になり、40人近い学級集団の生活を体験させていただいた。最初は、戸惑いが見られたが、時間が経つにつれ、



話し合う場面を多く見られ、早岐中学校の生徒と楽しい時間を過ごし交流を深めることができた。授業中は日頃あまり実施できない多人数でのグループ学習を通して、他者の様々な意見を聞くこと、自分の意見をはっきりと述べることの大切さなど、コミュニケーション能力の必要性を体感させることができた。

### (4) 職業に対する正しい理解と望ましい勤労観を育むための職場体験の実施



本年度は3年生2名が3日間の島外で、2年生4名は、島内の事業所で3日間の職場体験学習を行った。1年生2名は、インターネットや書籍を活用した職業調べを実施した。2・3年生は各自が興味のある職業について調べ学習を行い、生徒自身が市内や町内の事業所へ体験学習受け入れの依頼を行った。当初は仕事内容を理解しながら作業を進めるのに時間がかかったが、

徐々に仕事にも慣れ、従業員の方ともうまく協力しながら仕事を進めていくことができるようになった。生徒たちは、この体験活動を通して、働くことの意義を理解するとともに、仕事をするものの難しさや協力することの大切さを感じ取ることができた。また、コミュニケーション能力の重要性も理解することができた。

## (5) 基礎学力の向上と確かな学力の定着に向けた取組の実施

### ①A T（アチーブメントタイム）の活用

基礎・基本的な学習内容の定着を目指し、毎日16:10～16:25の15分間をA Tと名付け、年間を通して国語・数学・英語の各教科持ち回りで課題を準備して取り組んできた。取り組む内容は基礎的なものに絞り込み、年間を通して継続させることにより、確かな学力の土台作りとするとともに、学習習慣の定着を図るための取組として実施した。さらに授業中は、A Tの時間で身に付けた力を確認するため、それらを活用していく場面を設定した。また、表現力向上に向けた取り組みとして、弁論大会に向けた練習や発表会に向けた合唱練習にも取り組んだ。校内弁論大会では小学3～6年生も聴衆として参加する中、一人ひとりが堂々とスピーチすることができた。合唱やトーンチャイムなど黒島くんちや中連音楽会においてその成果を発表することができた。

## (6) 環境教育と食育の推進

### ①ふれあい給食

6月の学校公開週間と、1月の学校給食週間の2度、全児童生徒、職員に加え保護者、地域の方をお招きしてふれあい給食を実施した。1月のふれあい給食では、給食感謝標語や給食クイズの発表や給食を作られている方へのメッセージカードの贈呈など、和やかな雰囲気感謝しながら給食をいただく機会となった。

### ②お魚さばき方教室の実施



漁協女性部のみなさんにご協力いただき、地元で捕れた魚の「捌き方・料理教室」を開催した。生徒はこれまで海を身近に感じ、海の恵みを受けて成長してきた。魚もいつも身近にあり、幼い頃から食卓にあがってきたものである。しかしながら、各家庭の中で魚を調理する機会があっても生徒たちが自分の手で魚を捌く機会はあまり多くない。このような中、漁協女性部のみなさんに直接捌き方を指導していただいたことは、生徒たちに自分の手で調理する楽しさや、黒島の海で捕れた魚のおいしさを改めて実感するよい機会となった。また、将来漁業に携わっていきたいと考えている生徒にとっては、漁業に対する夢やあこがれを一層強くする体験となった。

## (7) 地域とともに歩み、成長するための活動

### ①あいさつ運動と清掃活動

年間を通して生徒会役員と職員が正門に立ち、登校してくる生徒とあいさつを交わしてきた。また、生徒がグループでローテーションを作って正門下の坂道の落ち葉を片付ける掃除活動を続けている。これは本校の「笑顔であいさつ、プラス1（感謝の心）」を具現化するために生徒一人一人、全教職員が取り組んでいるものであり、



あいさつを交わすことで優しい心、相手を思いやる心を育て、学校生活を明るく楽しいものにするよう取り組んでいる。また、坂道の清掃活動は、温かく見守ってくれている地域の人たちへの感謝の気持ちをあらわすとともに環境美化活動の一環として取り組んでいる。

## ②GT（ゲストティーチャー）による小中合同体育（よさこいソーラン節）の指導



運動会前に、Yosakoi させぼ祭りで結蓮と須賀 I Z A N A I 連で活躍されている実相院<sup>じっそういん</sup>さんによさこいソーラン節のご指導をいただいた。黒島の子どもたちは、小学1年生から中学3年生の9年間、我が家の漁船の大漁旗を法被にして、運動会でよさこいソーラン節を踊っており、地域の方も含めよさこいソーラン節を楽しみにしている。今回、本格的な踊りの指導を受けたことにより、より生き生きとした表現力と迫力が増し、保護者を始め地域の方に大変好評であった。

## ③黒島町民・黒島小中学校合同運動会

婦人部より、「今年の出し物は、フォークダンスをするので協力してほしい。」という依頼があった。中学生にオクラホマミクスサーの踊り方を指導し、そして、中学生が小学生、保護者、教職員に踊り方を教えるという方法をとった。

運動会当日は、地域の方も飛び入りで参加して大いに盛り上がった。また、応援合戦においては、小学生の部、中学生の部、小中合同の部において、小中学生のそれぞれが良さを生かしながら応援合戦を繰り広げることができた。少人数で様々な役割を果たさなければならない合同運動会だが、生徒の自主性やリーダーシップを伸ばし、精神的・体力的に大きく成長させる絶好の機会となっている。



## ④敬老の日の便り・年賀状作成

毎年、生徒全員で町内に暮らしておられるお年寄りの方々に敬老の日の便りと年賀状を作成して郵送している。内容はお祝いの言葉や自分たちの学校生活や家庭生活の様子、お年寄りの健康を気遣う中学生らしいものである。これからもこの活動を通して、長く黒島を支えてきたお年寄りを敬い大切にする心や、自分たちを見守り続けてくれたことへの感謝の心を育てていきたい。

## 3 「小中併設3年目に向けて」

本年度は、小中併設2年目にあたり、昨年度の1年間の成果と課題を踏まえた上で、さらに小中合同の行事のメリットを最大限に生かした教育活動を推し進めることができた。生徒たちも、小学生の模範になろうと、各行事において意欲的に取り組むことができた。

また、黒島の豊かな自然と地域の人たちの中で様々な体験活動を経験し、心豊かでたくましい中学生へと成長できた。次年度より、新校舎建設のため2年間小学校校舎に移転することになるが、小中併設校3年目としてのメリットを最大限に生かしながら、義務教育9ヶ年を見通した黒島でなければできない黒島だからできる特色ある教育活動を展開していきたい。